
新規「ハイパフォーマンス統括人材の育成支援」事業
第 1 期ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラム
第 1 回国内集合研修 開催報告

独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC:JAPAN SPORT COUNCIL)は、2020 年以降も国際大会における継続的なメダル獲得に向け、競技団体におけるマネジメント強化を図る人材の育成プログラム開発を目的として、平成 29 年度から「ハイパフォーマンス統括人材の育成支援」事業を実施しております。平成 30 年 4 月から、第 1 期ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラムを開始し、第 1 回目の国内集合研修を平成 30 年 6 月 7 日(木)・8 日(金)にハイパフォーマンスセンターで開催しました。

2 年間に渡って行われる本プログラムは、各競技団体における競技力強化を支援し、持続的にメダルを獲得するための環境整備を行うハイパフォーマンスディレクター(HPD)、また現場で選手やコーチをまとめ世界で勝ち続けさせるワールドクラスコーチ(WCC)の育成を目的としています。

第 1 回目の開催となった今回の研修では、3 名の外部講師による、HPD、WCC に求められる行動特性(コンピテンシー)の習得のための講義を行い、ワークショップなどを通じて受講者間で意見交換を実施しました。

受講者、開催概要等、以下にてご報告させていただきます。

■ 受講者

【ハイパフォーマンスディレクター育成プログラム】

- ・浅見 敬子 氏 (公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会)
- ・栗山 雅倫 氏 (公益財団法人 日本ハンドボール協会)
- ・村松 さやか 氏(公益財団法人 日本水泳連盟)
- ・吉田 進 氏 (特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟)
- ・吉田 清司 氏 (公益財団法人 日本バレーボール協会)

【ワールドクラスコーチ育成プログラム】

- ・川北 元 氏 (公益財団法人 日本バレーボール協会)
- ・花岡 伸和 氏 (一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟)
- ・山田 永子 氏 (公益財団法人 日本ハンドボール協会)

■ 第1回国内集合研修プログラム

日時:平成30年6月7日(木)、6月8日(金)

場所:ハイパフォーマンスセンター

1日目(6月7日)

時間	内容	講師
10:00-10:30	開会挨拶	勝田 隆 (日本スポーツ振興センター 理事)
10:30-12:00	オリエンテーション	河合 純一(日本スポーツ振興センター)
13:30-17:00	アセスメント・フィードバック	高橋 美緒 氏(コーン・フェリー・ヘイグループ株式会社)

2日目(6月8日)

時間	内容	講師
9:30-11:30	ワールドクラスコーチによる講演	デヴィット・ヨハン 氏(公益財団法人日本スケート連盟)
13:00-16:00	伝え方が9割(パブリック・スピーキング研修)	佐々木 圭一 氏(株式会社ウゴカス)
16:00-17:00	アクションプランの作成	河合 純一(日本スポーツ振興センター)

【研修1日目】

1日目には、コーン・フェリー・ヘイグループ株式会社アセスメントディベロップメント・ファシリテーター高橋美緒氏による、受講者の強みや弱みを明らかにするアセスメント・フィードバックが行われました。このセッションを通して、受講者は自身のリーダーシップスタイルの特徴やパーソナリティを自己分析し、各場面に応じた効果的なリーダーシップスタイルを学びました。

【研修2日目】

2日目には公益財団法人日本スケート連盟スピードスケートナショナルヘッドコーチのデヴィット・ヨハン氏、また、「伝え方が9割」の著者であり株式会社ウゴカス代表取締役の佐々木圭一氏の2名をお迎えしました。

デヴィット・ヨハン氏からは平昌オリンピックでのメダル獲得に至るまでのご自身の経験やコーチング哲学に関する話を交えながら、ワールドクラスコーチに求められる役割や行動特性についてお話いただきました。「勝利」が自身の使命であり、ビジョンや戦略は全て勝利のためという言葉が印象的でした。

一方、佐々木氏からは、相手の心に残る「強いコトバ」を作る技術を学びました。受講者が、習得したスキルを用い、チームや選手の士気を高めるスピーチを行ったところ、佐々木氏や聴講者からは、相手への伝わり方が格段に向上されたというコメントがありました。伝え方はセンスではなく、技術により格段に上達させることが可能であると強く主張されていました。

【今後の予定】

第2回国内集合研修は9月に実施予定です。その間、受講者には課題の提出と実地研修が課されています。さらに、11月には海外研修を予定しています。

【写真】



アセスメント・フィードバックの様子



受講者がディスカッションを行う様子

■ 「ハイパフォーマンス統括人材の育成支援」事業とは

強豪国のハイパフォーマンススポーツにおいては、多くの選手・コーチ・スタッフ等がフルタイム化・国際化していることで、彼らの活動も複雑化、さらに高度化しています。強化活動を計画し、確実に実行していくうえでは、強化に関する知識・経験だけでなく、マネジメントに関する詳細な知識や経験を持った人材の需要が高まっています。

これについて、平成 28 年 10 月スポーツ庁が発表した「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」の中で、「ハイパフォーマンス統括人材育成への支援強化」として言及されています。JSC はこの方針に基づき、2020 年以降も国際大会における安定的かつ持続的なメダル獲得の実現に向け、各競技団体における競技力強化を支援すべく、①ハイパフォーマンスディレクター及び②ワールドクラスコーチ（①②を総称してハイパフォーマンス統括人材）の育成を目指したプログラム開発に取り組んでおり、平成 30 年度から第 1 期ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラムを実施しています。

■ 受講者の応募要件および選考方法について

◎ 応募要件

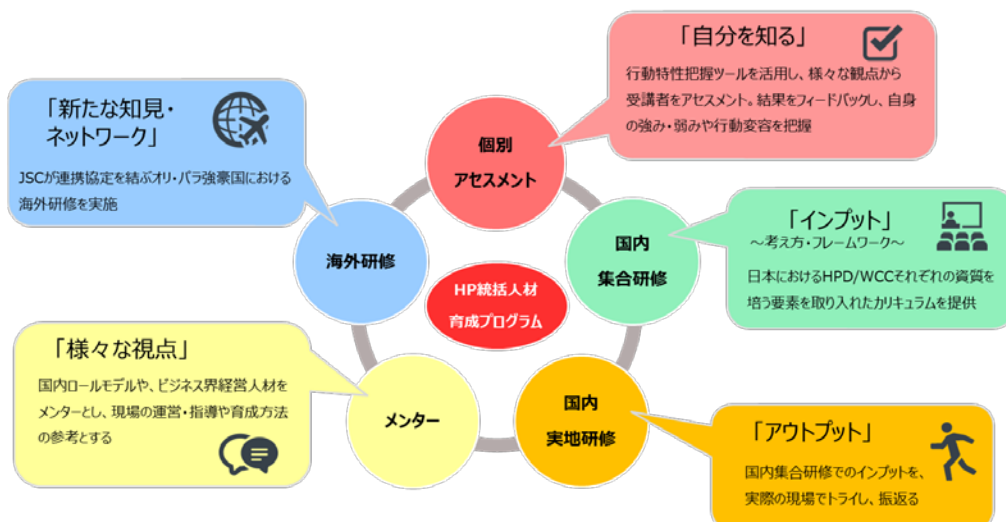
ハイパフォーマンスディレクター（HPD）	ワールドクラスコーチ（WCC）
<p>〔必須要件〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プログラム受講にあたり、中央競技団体から推薦を得られる者 2. 2020 年以降、中央競技団体の強化領域全般を担う役割が期待される者 3. 学士以上の学位を保有、もしくはそれと同等以上の知識および経験を有する者 <p>〔あれば好ましい要件〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語でのコミュニケーションに抵抗がない者。英語で議論や交渉ができることが望ましい 2. 一般企業や法人にて 30 名以上のマネジメント経験を 5 年以上有する者 3. スポーツビジネスやMBAなどの学位を有する者 4. 以下、いずれかの資格を保有、もしくはプログラムを修了している者 <ul style="list-style-type: none"> ・ JOC ナショナルコーチアカデミー ・ JPSA 障がい者スポーツコーチ ・ 日本体育協会（※）公認上級コーチ ・ JOC 国際人養成アカデミー <p>（※）2018 年 4 月 1 日に「日本スポーツ協会」へ名称変更</p>	<p>〔必須要件〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プログラム受講にあたり、中央競技団体から推薦を得られる者 2. ナショナルチームでコーチとして 4 年以上の経験を有する者 3. オリンピック・パラリンピックに、ナショナルチームのコーチとして参加実績を有する者 4. 2020 年以降、中央競技団体のメダルポテンシャルアスリートの強化を担う役割が期待される者 5. 学士以上の学位を保有、もしくはそれと同等以上の知識および経験を有する者 6. 以下、いずれかの資格を保有、もしくはプログラムを修了している者 <ul style="list-style-type: none"> ・ JOC ナショナルコーチアカデミー ・ JPSA 障がい者スポーツコーチ ・ 日本体育協会（※）公認上級コーチ <p>〔あれば好ましい要件〕</p> <p>英語でのコミュニケーションに抵抗がない者。英語での議論や交渉ができることが望ましい。</p>

◎ 選考方法

- ・オリンピック・パラリンピック（夏季・冬季）全中央競技団体に周知し、受講希望者を募集
- ・受講希望者には小論文とプレゼンテーション及び、これまでの経験による総合的な評価によって選考

■ 第1期ハイパフォーマンスディレクター／ワールドクラスコーチ育成プログラムの内容について

プログラムは、「描く・動かす・育てる」ための学びをコンセプトに 2 カ年で設計されています。



※本プログラムは、本事業のプログラム開発の一環として実施するものです。